

① すべての人が自分の意見を言える、それが大切にされる住吉区に

【重点取組事項5】
区長と子どもたちとの対談

【現状と課題】

・こどもや障がい者、高齢者に対する虐待の通告・通報件数は依然として多く、配偶者などによる暴力(DV)被害の相談件数も増加するなど、個人の権利、利益が侵害され、安全安心な生活が脅かされています。
・生活上の困難を抱えたり、さまざまな生きづらさを抱える人が、地域社会のなかで正しい理解や関わりがないままに差別や偏見にさらされてしまう状況があります。
・このような状況により、自分の意見を言ったり、自分で決定することが難しい人々があります。

【これまで取り組めたこと】

・児童虐待等の相談窓口等をホームページ・リーフレット等で周知
・多様な人権問題に対する理解を深めるため、区民や関係機関、関係団体に対し研修・学習会等を開催
・認知症、発達障がい、ひきこもり、ヤングケアラー等に関する理解を深めるため、区民や支援者、関係機関、区役所関係職員を対象に、講演会を開催、啓発用リーフレットの作成
・成年後見制度等、権利擁護に関する理解を深めるため、講演会、研修の開催

【これからの目標】

・地域で、家庭で、学校で、区役所等の相談窓口で、誰でも話したいこと、相談したいことをためらうことなく伝えることができるような環境をめざします。
・話を聞く側、相談を受ける側が、誰もが自己表現や自己決定する権利を持っていることを理解できている環境をめざします。
★自分の思いも大切に、相手の思いも大切にしよう。

② たくさんの「気になるなあ」が支援につながる住吉区に

【現状と課題】

・ヤングケアラー、虐待やDV被害者、外国にルーツを持つ人々、不登校・ひきこもりの人々など、生きづらさを抱えた人々が孤立し、支援の網の目から漏れる人々もいます。
・核家族化が進み、子育てを周りに相談できない保護者等が増えており、こどもに関する相談のニーズは高い状況が続いています。
・見守り活動の協力者の広がり、地域住民と専門職・行政間の連携等が課題となっています。

【これまで取り組めたこと】

・地域見守り支援システムを構築・運用・「子ども見守り隊」の活動の広がり、継続
・地域包括支援センター職員など福祉専門職による出張相談の実施
・はぐあっぷ(妊娠・出産・子育て相談)の実施

【これからの目標】

・ちょっとした日常の変化に気づき、「もしかして何かあったのかも」と思える人が増えること、気づきがあったときに相談できる先を思いつける人が増えることをめざします。
・身近な地域支援事務所などで、「よろず相談会」のような場が開かれていること、いつでも相談できることを知っている人が増えることをめざします。
★気になる人ともつながって、気にかかけあえる関係になろう。

③ 「木も見る、森も見る」まるごとを話しあい、支援が進む住吉区に

【現状と課題】

・さまざまな社会的な背景の変化により、複合的な生活課題を抱えた人が増え、既存の制度や個別の支援だけでは解決できない場面が生じています。こうした複合的な課題を抱えた人を課題ごとに関係者や専門職が支援することになると、地域の中で暮らすという側面が見えにくくなったり、その人の全体像(まるごと)を把握したりすることが難しくなります。
・木とは人、森とは地域、個別支援と地域支援の両輪が回ることが地域福祉を進めるうえで重要ですが、その両輪をつなぐ(重ねあわせる)軸となる取組みが今後ますます重要です。

【これまで取り組めたこと】

・地域における福祉活動に関する、地域住民、専門職、行政による会合の開催
・地域包括支援センターの呼びかけによる「地域ケア会議」「活動報告会(地域交流会)」等の開催、地域関係者の参加
・(基本目標1-②に関連)区内各地域で開催される地域座談会にて、地域の福祉課題を共有

【これからの目標】

・気になる人がいたときに、地域で見守ること、福祉の専門職が具体的な支援を行うことがうまくかみあうように、さまざまな立場の人が地域で情報を共有したり話しあったりできる機会が持てるようになる、そうした機会が増えることをめざします。
★心配ごとはいろんな人と共有して、みんなで相談していこう。

④ それぞれができることから、大きな力を生みだせる住吉区に

【現状と課題】

・複合的な生活課題を抱えている人々や制度のはざまに陥っている人々を支えるため、分野を超え、その人が暮らす環境も含めて相談・支援を行う体制の充実が求められているほか、地域・専門職・行政等が連携し協働することが必要です。
・地域・専門職・行政等が協働するうえで、それぞれの機能と役割の相違などから、円滑な連携が行われないことがあります。

【これまで取り組めたこと】

・複合的な課題、支援困難ケースについて、関係機関が集まり、具体的な支援や連携について話しあう「つながる場」の開催
・学習会等を通じた、地域住民や専門職、行政等の連携によって支援が進んだ事例の共有
・学校、地域、警察、行政、区社会福祉協議会が参加し、子ども見守り隊活動の充実に向けた校区别意見交換会の継続的な実施

【これからの目標】

・単独で関わる、支援することが難しい状況の地域住民を受け止め、支えるために、地域住民同士、地域住民と福祉の専門職や行政、専門職同士などがうまくつながり、どこかに誰かに負担が集中するようなことがないように、それぞれの特性を活かした息の長い支援も想定した役割分担ができるようになることをめざします。
★支援者同士も、顔合わせから力をあわせる関係になろう。